

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	モダンデザイン (Modern Design)		
ナンバリングコード	L20405	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 標準レベル 建築計画
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 前期
必修・選択区分	コース選択必修: 住居・インテリアコース 選択: 建築設計コース、建築工学コース、環境地域(まち)コース、環境地域(社会)コース		
授業コード	L040501	クラス名	-
担当教員名	近藤 正一		
履修上の注意、履修条件	本講義では、さまざまな建築空間を紹介しますが、日頃から自らの空間体験を「文化の系」の中で考えることができるよう心掛けることをお勧めします。例えば、茶道をたしなむためには、ある程度の作法を身につける必要があるように、建築空間を心から味わうためには、その種の建築にまつわる文化の素養をもっていることが望ましいと思われまます。講義内容を単なるモダンデザインの知識として覚えるだけでなく、教養として身につけられるように心がけてください。		
教科書	適宜、参考図書を紹介しします。		
参考文献及び指定図書	毎回授業の内容に関連する優良図書を紹介しします。		
関連科目	スペースデザイン、建築計画1、設計製図1 など		

○授業の目的・概要等	
授業の目的	本講義は、モダンデザインを概観するために多くの時間を費やしますが、本当に重要なのは、デザインに関する教養を深め、デザインについて考え、論じることができるようになることです。英語に例えれば、単語や熟語をたくさん覚えることだけに満足しないで、話せるようになってほしいという願いに似ています。したがって、内外のすぐれた建築空間やインテリアエレメントなどを、単にこれらの事例を知識として知り、その形をなぞるのではなく、各自の建築空間体験に照らしつつ、その意味を自身の言葉で思考し直すことが望まれます。
授業の概要	建築やインテリアのデザインを志す者にとって必要となる基本的知識として、主に19世紀から現代に至るまでの西洋を中心としたデザインの歴史を解説しします。とりわけ都市・建築・インテリア作品などとデザイン運動および建築家との関係について、できるだけ具体的に説明しします。単なる歴史の流れという枠組みにとらわれず、幾人かの建築家の言葉や作品分析を通して、モダンデザインにおける空間デザインの変化を概観するとともに、近年の空間研究における新しい視点について、概説しします。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 双方向授業 他
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	該当しない

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	① 代表的な建築・建築家のおもな特徴と社会的・歴史的意味について調査し報告できる。		10点	
【知識・理解】	② 歴史、技術、風土、時代背景など、モダンデザインに関する基礎知識が身につけている。／③ 空間に関する代表的な分析方法について理解している。	70点		
【技能・表現・コミュニケーション】	④ モダンデザインの潮流と代表的な建築・建築家との関係について概説できる。		10点	
【思考・判断・創造】	⑤ モダンデザインについて論理的考察ができる。		10点	
○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
原則として毎回、講義の最後に授業内容について課題を出しします。提出をもって出席に代えますので、課題が課されたら、かならず提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。  [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。 授業の中で、適宜質問をします。優れた解答をした者は、記録して加点することがあります。				
○その他				

## 2020年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	○授業計画
<p>科目名：モダンデザイン (Modern Design) 担当教員：近藤 正一</p> <p>授業コード：L040501</p>	<p>科目名：モダンデザイン (Modern Design) 担当教員：近藤 正一</p> <p>授業コード：L040501</p>
<p><b>学修内容</b></p> <p><b>1. モダンデザインの潮流</b> 19世紀から現代に至るまでの時代の大きな流れについて、近代建築を中心に概観します。それらのエポックのうちの多くは、新技術であったり、ある一人の天才の系譜であったり、運動であったりしますが、各論は次回以降に譲ります。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>	<p><b>学修内容</b></p> <p><b>9. ブルータリズムとヴァナキュラー</b> 戦後復興期を経て、近代建築は常に変化を続けています。戦後の建築史については、未だ不確定な部分が多いのですが、1940年代から60年代にかけて、時代の変遷とともにデザインも変遷していく様子を見ていきます。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>
<p><b>2. モダンデザインの萌芽</b> 時代は本来、区切ることのできるものではありません。小説や映画はかならず始めと終わりがありますが、人生がそこで始まり終わる訳ではないのと同様に、「それ以前」と「それ以後」とは連続しており、「それ」はリボンの一部に過ぎないということを理解するために、近代につながる近代以前のデザインについて技術史を中心に解説します。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>	<p><b>10. ポストモダン</b> とりわけ日本からの影響が色濃く表れることの多いモダンデザインですが、ポストモダン建築はとくに日本に建つものが少なくありません。建築を情報としてとらえる考え方や構造主義、エイジアン・カオスの影響など、できるだけ多方面からアクセスします。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>
<p><b>3. 近代初期の運動</b> 長かったモダンデザイン胎動期を経て、イギリスで始まったアーツ・アンド・クラフツ運動を皮切りに、アール・ヌーヴォーやウィーン分離派、ドイツ工作連盟など、多くの新しいデザイン運動が生まれました。彼らの活動を連続的に概観します。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>	<p><b>11. デコンストラクションとミニマリズム</b> コンテンポラリーデザインの源流と思われるデコンストラクション(脱構築)と呼ばれる思想とモダンデザインの現在の解釈と思われるミニマリズム、およびそれらが建築に与えた影響について説明します。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>
<p><b>4. 近代初期のもうひとつの姿</b> 運動にはつながらなかったものの、近代初期にきら星のごとく輝いた建築家があります。オーギュスト・ペレ、ヘンドリック・ペトルス・ベルラーヘ、アントニオ・ガウディ、ルイス・サリバンらを取りあげ、その後のモダンデザインに対する影響について解説します。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>	<p><b>12. インテリアデザインの潮流</b> これまで解説した内容を踏まえ、こんどはインテリアデザインに的を絞って、様式史、技術史および文化史として読み替えることにより、近代以前(18世紀)から現代(21世紀)にいたるまでの潮流について概説します。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>
<p><b>5. 表現主義と構成主義</b> ドイツ表現派やアムステルダム派など表現主義のデザインとデ・スティールやロシア構成主義など構成主義のデザインとは、一見相容れないかのように思われるかもしれませんが、じつは非常に密接な関連があります。20世紀初期のモダンデザインについて詳説します。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>	<p><b>13. インテリアデザインの巨匠</b> 日本におけるインテリアデザインの位置づけについて説明したのち、シャルロット・ペリアンを中心に、インテリアデザインの巨匠とその社会的・時代的役割について解説し、およびインテリアデザイナーという職能の将来について説明します。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>
<p><b>6. パウハウスとCIAM</b> モダンデザイン、とりわけその後のインダストリアルデザインに対し、決定的な影響力を持つパウハウスと、いわゆる近代建築の考え方が世界中に大きな影響を与える場となったCIAMに関連する建築家、およびその時代背景について、解説します。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>	<p><b>14. 空間という概念</b> 「空間」という概念に着目することにより、モダンデザインを再解釈します。空間という言葉の様々なとらえ方を示し、たとえば名建築とされる具体的な事例を挙げて、とくに設計等に即効性のあると思われる空間分析の有効性をみていきます。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>
<p><b>7. 近代建築の三大巨匠</b> 巨匠と呼ばれる建築家の中でも別格とされるル・コルビュジェ、ミース・ファン・デル・ローエ、フランク・ロイド・ライトについて、作品と理論を概観し、彼らがその後のモダンデザインに及ぼした影響について解説します。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>	<p><b>15. コンテンポラリー・デザイン</b> 本来、モダンとコンテンポラリーはどちらも「現代の」という意味で使われますが、建築分野では近代と現代を区別するため、コンテンポラリーという用語が使われます。これまでの講義を踏まえ、現代のデザインをどう評価し、近未来のデザインがどう変容していくのかを考えます。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>
<p><b>8. 日本における近代建築</b> 20世紀以降、いわゆるモダンデザインは、日本においても広く普及しました。日本における近代建築の潮流は、未だ不明確な点が多いのですが、最新の研究成果をもとに日本のモダンデザインを概説します。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>	<p><b>16. 期末試験</b> これまでの講義内容を試験範囲とします。試験時間は80分とします。筆記用具以外のすべての持ち込みは不可です。</p> <p>予習：学修予定内容に対しアクティブラーニングする。(約2.0h) 復習：不十分な部分を復習しマスターしておく。(約2.0h)</p>